

奈良学園大学は、奈良市へのふるさと納税を通じた 学生支援の取り組みに参加しています。

このたび、「ふるさと納税」を活用した支援事業につきまして、第2期募集のご案内をいたします。
本事業は、地域連携活動や学生支援、国際交流活動等をさらに推進していくための重要な取り組みとして実施しております。
皆さま方におかれましては、本事業の趣旨をご理解いただき、周囲へのご周知やご協力を賜れましたら幸いです。

支援のお願い

ふるさと納税を通じていただく皆さまのご厚意は、学生たちの成長を支え、地域に還元されます。それはまさに、「人を支える人になる」本学の教育目標を具現化する力となります。

学生がならのまちで学び、地域とつながり、未来のささえとなる姿を、ぜひ一緒に育んでいただければ幸いです。

皆さまの温かい支援を、心よりお願い申し上げます。



ふるさと納税による寄付の方法

寄付の詳細は奈良市公式ウェブサイトからご覧いただけます。

奈良市のホームページ にお入りいただき、スクロールしてください。
本学の紹介ページが掲載されています。

<https://city.nara.lg.jp/site/furusato/245340.html>



ここから、
ふるさと納税のお手続きが可能です。

手続き入力画面
「**寄付金の用途**」において、「**奈良学園大学の大学支援**」を選択していただくことでご支援いただけます。

※奈良市在住の方でも、「返礼品無し」でご寄附いただけます。

ニューズレター第20号 編集後記

木々の緑が一段と深まり、心なしか梅雨の気配も感じられる季節となりました。本学の「いま」とこれからの挑戦をお届けする、ニューズレター第20号をお手元にお届けいたします。

今号では、地域連携のレギュラー企画として毎回ご好評をいただいている「登美ヶ丘カレッジ」の第33回開催案内を掲載いたしました。今回は「心の回復力～ストレス社会でどう生きるか～」をテーマに、現代を生き抜くヒントを皆様と共に見出す充実した講座を予定しております。また、本号からの新たな試みとして、最前線で課題に挑む教員の研究紹介（みらいへの一歩）を連載としてスタートいたしました。さらに、教育・福祉の質の向上を目指した日本育療学会との共催企画・第30回記念学術集会公開講座「自閉症・発達障害・知的障害の方への基本的な視覚支援」のご案内も掲載しています。

このように、本学は地域社会への継続的な貢献、学術研究の深化、専門的支援の普及など、多様なアプローチで様々な取り組みに邁進しております。鬱陶しい雨の季節を迎えますが、本誌を通じて本学の瑞々しい教育・研究活動の熱気を感じていただければ幸いです。今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



奈良学園大学
社会・国際連携センター長
伊藤 健一

ご寄付で実現する未来

皆さまからいただいたご支援は、
学生の学びを地域に還元する具体的な取り組みにつながります。

●地域の健康を支える

学生と教員が協力し、健康フェスティバルや公開講座を展開。
地域住民の健康維持・増進に貢献します。

●多様な人々と共に生きる社会を育む

高齢者や障がいのある方々と学生がボッチャや交流活動に参加し、
互いを理解し支え合う共生社会を築きます。

●次世代の学びを応援する

中高生を対象とした「ヒューマンサイエンス・エンジニアリングカフェ」で、医療や工学の魅力を伝え、未来の人材育成を後押しします。

●安全で安心なまちをつくる

学生と地域が協働して防災訓練を行い、防災拠点としての役割を果たしながら、安心できる地域社会をつくります。

第33回 奈良学園大学登美ヶ丘カレッジ開催のご案内



奈良学園大学
保健医療学部
看護学科
蓮池 光人 先生

ストレス社会と言われる現代においてどのようにストレスに対処していけばいいのか。ストレスに対処する力はどのように備わっているのか。自分に内在する力。レジリエンスについて考えてみましょう。人間は何歳になっても成長発達していくといわれています。これからどのように成長発達していくのか、さらに充実した生活を送っていくために何ができるのか。これまでの生活過程を振り返りながら人間としてこころの有りようを見つめ未来へ大きな夢を描いていきましょう。

開催予定
日時：2026年8月29日(土) 13:30～15:00
場所：奈良学園大学 1号館 4階 1409教室
定員：30名(定員に達しましたら、募集を締め切らせていただきます)

こちらから
申込みください。



第33回登美ヶ丘カレッジ
申込フォーム

各種公開講座が開催されました



科学技術に関する国民の理解と関心を深め、わが国の科学技術の振興を図ることを目的とした「科学技術週間」にあわせ、本学でも公開講座(登美ヶ丘カレッジ)を開催しました。

第31回登美ヶ丘カレッジ開催

何歳からでも始められるプログラミング
日時：2026年4月18日(土) 13:30～15:00
講師：人間教育学部人間教育学科 真弓 英彦 先生



第31回登美ヶ丘カレッジにおいて、「何歳からでも始められるプログラミング」というテーマで体験型の講演をさせていただきました。

ご参加いただいた小学生から60代以上の幅広い世代の皆さまには、実際に小学校や中学校で活用されている「Viscuit(ビスケット)」という教材を使用して、多くの方には初めてのプログラミングを体験していただきました。

参加いただいた皆さまからは「プログラミングを初めて体験し、とても楽しかった」などの感想をいただきました。

本講演のタイトルのとおり、プログラミングは何歳からでも始められます。
是非この機会をきっかけに、今後も継続してプログラミングを楽しんでいただければ幸いです。

第32回登美ヶ丘カレッジ開催

楽しく学び、今日からできる「認知症予防・対策！」
日時：2026年5月16日(土) 13:30～15:00
講師：保健医療学部看護学科 臼井 キミカ 先生



第32回登美ヶ丘カレッジにおいて、楽しく学び、今日からできる「認知症予防・対策！」というテーマでお話しさせていただきました。当日は、多くの皆様方にご参加いただき、終了後も私自身が気付かされたご相談などもあり、むしろ私にとって実り多い時間でした。「楽しく」という要素を認知症の予防にどのように盛り込むのか、ヒントは、日本独特の文化である湯船につかる入浴法が、認知症の発症リスクを低減するという研究(約8,300人を対象に約9年間の追跡調査)でした。皆様、実行されていますか?ご参加の方々が鼻歌を歌いながら入浴を楽しんでいらっしゃる姿を想像しながら、「あの話は本当でしたね」という声が届くのを期待しております。

みらいへの一步（教員研究紹介）

健康や地域の暮らしを良くするため、本学の教員が日々挑んでいる研究の「いま」を分かりやすく紹介します。身近なところで生まれている、未来のための素敵な取り組みを覗いてみませんか。

安全教育との出会いから国際協力へ

人間教育学部・学部長、学生支援センター・センター長を務めています松井典夫です。
2014年4月に本学が発足すると同時に赴任してから、12年が経ちました。私の専門は学校安全・安全教育です。この私の専門は、今から25年前の2001年6月8日に大阪教育大学附属池田小学校で発生した、不審者侵入児童殺傷事件が契機となっています。この事件では、授業時間中に犯人が学校に侵入し、まだ幼い1、2年生の児童8人を殺害し、15人（うち教員2名）に重軽傷を負わせた事件で、「学校は安全な場所である」という概念を覆した事件でした。当時、小学校の教員をしていた私は、2004年4月に当校に赴任しました。事件の影響を大きく受けた当校は、教科教育よりも何よりも、学校の安全を探求し、推進する責務を負っていたと言えます。事件で亡くなった児童の「卒業式」で、体育館の床を掻きむしるように号泣する遺族を見て、あまりにも強い悲しみに震えが止まらない自身の体を抑えながら、（2度とこのような事件があってはならない）と強く思い、子供の命を守るための研究に邁進することを誓いました。

大学の教員になり、私は当時の学部長の薦めで本学のカンボジア研修の引率をすることになりました（当時は3回断った末に嫌々・・・）。その初めての渡航で、スラムの少年トナンくんとは出会いました。トナンくんは汚れた服を着て、裸足で、汚れた顔で、そしてキラキラと輝く目をしていました。「大きくなったら何になりたいの?」と問うた私にトナンくんは、「お医者さんになりたいんだ」と答えたのです。学校にもまともに通えない貧しい子が、医者になりたいなんて・・・。私は、この子たちから目を離したくない、と強く思ったのです。そして、自身の専門をこの地、カンボジアの子供たちの幸せのために生かせないか。そう思い、カンボジアへの安全教育導入プロジェクトをJICA草の根事業に申請し、採択されました。3年間（2026年3月～2029年3月）の本プロジェクトは奈良学園大学とJICAの契約事業で、私はプロジェクトマネージャーを務めています。

今年度、学部長に就任し（想像以上に）多忙な日々を送っています。しかしその中でも、JICAプロジェクトの推進に全面的に協力いただいている大学には感謝し、本事業が大学にとっても有効な取り組みになるよう努めていきたいと思っています。

奈良学園大学
人間教育学部
学部長
松井 典夫 先生



病室環境研究

今回は、病室の光環境と病院内転倒の関連について紹介します。
入院中の転倒は外傷や骨折の原因になるだけでなく、生活の質の低下や入院日数・医療費の増加にも関連します。高齢者は入院により睡眠障害・せん妄・転倒が誘発されることが知られていますが、その原因は充分にはわかっていませんでした。近年の研究では、日中の光曝露量の減少が体内時計(biological clock)による生体リズムの指標であるメラトニン分泌量の減少と関係し、日中の光曝露量が多いほどメラトニン分泌量が多く、日中の光曝露量を増加することにより睡眠の質・うつ症状・認知機能を改善することがわかってきました（文献1）。メラトニンは夜間に分泌される松果体ホルモンで、睡眠障害だけでなくうつ症状や認知機能障害を改善する効果があります。

入院により日中の光曝露は病室環境に強く依存するため、病室の光曝露量が少ないほど生体リズムの乱れを引き起こし、睡眠障害・せん妄・うつ症状・認知機能障害を介して入院中に発生する転倒の原因になっているのではないか、こうした仮説から病室の明るさと転倒との関係を解明する研究に着手しました。結果として、日中の平均照度は非窓側病床より窓側病床が3倍高く（図1、文献2）、既存データを用いた後ろ向き研究では病院内転倒発生率が非窓側病床より窓側病床で低いことがわかりました（図2、文献3）。

奈良学園大学
保健医療学部
看護学科
学科長
岩本 淳子 先生



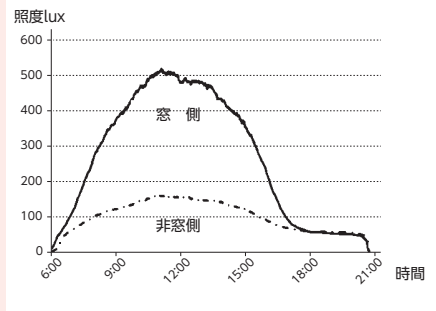


図1 窓側と非窓側の平均照度の比較

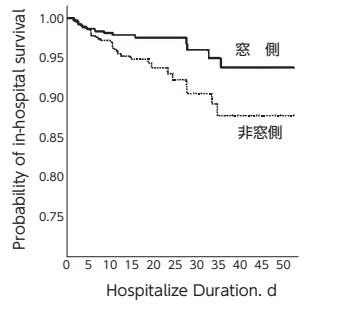


図2 2,767人における病床別の院内転倒生存曲線（カプラン・マイヤー曲線）

しかし、この結果は単一施設の分析結果であるため一般化するには限界があります。現在は複数の施設より協力を頂き、入院生活下における病床の光曝露と転倒との関連を検討しています。

1. Riemersma-van der Lek RF et al. Effect of bright light and melatonin on cognitive and noncognitive function in elderly residents of group care facilities: a randomized controlled trial. JAMA. 2008; 299(22):2642-55. 2. J Iwamoto, et al. Decreased Daytime Light Intensity at Non-Window Hospital Beds: Comparisons with Light Intensity at Window Hospital Beds and Light Exposure in Non-Hospitalized Elderly Individuals. Chronobiol Int. 2018 May;35(5):719-723. 3. J Iwamoto, et al. Lower Incidence of In-Hospital Falls in Patients Hospitalized in Window Beds than Non-Window Beds. J Am Med Dir Assoc. 2020 Apr;21(4):476-480.

障害児支援

リハビリテーション学科作業療法学専攻の新川千尋です。私は大学卒業後より、地域福祉領域である児童デイサービス（現：児童発達支援・放課後等デイサービス事業所）にて、主に発達障害のある子どもたちとそのご家族への支援に携わってきました。

現場では、子どもへの支援だけでなく、家族をどのように支えるか、また園や学校など子どもたちの生活の場とどのように連携していくかについて、日々試行錯誤を重ねています。こうした実践経験を通して、「地域の中で家族を支えること」の重要性を強く感じ、現在の研究テーマにつながっています。

現在は、「放課後等デイサービスにおける家族支援のあり方」について研究しています。近年、放課後等デイサービスは子どもの発達支援だけでなく、家族支援の役割も求められるようになってきました。しかし、社会状況などにより家族を取り巻く環境が大きく変化する中で、家族が求める支援と、支援者が必要だと考える支援には違いがあることも指摘されています。そのため、家族と支援者双方のインタビュー調査から、よりよい家族支援のあり方について検討しています。

この研究を通して、子どもたちとご家族が、地域の中で安心して生活できる支援につながるよう、現場と研究の両面から取り組んでいきたいと考えています。

また近年では学校作業療法など、子どもの分野における作業療法が広がっています。学生にも作業療法の奥深さとともに面白さを伝えていながら共に学んでいきたいと考えています。

奈良学園大学
保健医療学部
リハビリテーション学科
新川 千尋 先生





公開講座のご案内

参加費
無料

対象 支援の必要な方への具体的な方法を知りたい方
特別支援教育や医療・福祉等にかかわるすべての方

内容 自閉症・発達障害・知的障害の方への
基本的な視覚的支援
「みとおし」「えらぶ」「おはなし」

講師 (株)おめめどう 奥平綾子氏

<講師プロフィール>
奥平綾子 丹波篠山市在住 1986年上智大学文学部哲学科卒 1995年に次男が自閉症と診断されて以降、自閉症の支援、障害者福祉の道へ。TEACCH研やTAS研などの活動後、2004年に(有)おめめどう自閉症サポート企画を起業。現在株式会社おめめどう 代表取締役



日時 2026年8月30日(日)10:00~11:00

場所 奈良学園大学 3号館
奈良市中登美ヶ丘三丁目15-1
アクセス：近鉄「学研奈良登美ヶ丘」駅から徒歩8分
近鉄「学園前」から奈良交通バス「中登美ヶ丘四丁目」下車 約150m
詳しくは、奈良学園大学HPをご覧ください
※ 駐車場は、使用できません
公共交通機関でお越しください

参加申込 右のQRコードで申し込んでください
当日参加も歓迎です

定員 約100名



当時開催 支援機器展示及び販売会（10:00~14:00頃）
出展予定：日本支援技術協会 おめめどう ラック産業株式会社 他

奈良学園大学 社会・国際連携センター 共催 日本育療学会 第30回記念学術集会 お問合せ 日本育療学会 第30回記念学術集会事務局 E-mail: ikuryo30@gmail.com

この事業は、日本育療学会の第30回学術集会を記念し、奈良学園大学社会・国際連携センターと共催しておこなうものです。

公開講座について（学会抄録より抜粋）

自閉症・発達障害・知的障害の方への基本的な視覚的支援「みとおし」「えらぶ」「おはなし」

株式会社 おめめどう
奥平 綾子

私たちも日々の暮らしの中で落ち着いて、自分らしく生きていくためには、安心できる環境がいるはず。おめめどうのお伝えする「基本の手立て」は、特別な支援が必要な人に限らず、すべての人にとって役立つと思っています。けれども、自閉症・発達障害・知的障害の人たちには、それらを「視覚的」にすることが必要で、スムーズに「伝わる・尋ねる」ができるように環境調整することが「合理的配慮」だと私は考えています。

- ① 見通しのある暮らし — 心を支える
- ② 選択活動のある暮らし — 責任を支える
- ③ 見える形のコミュニケーション — 関係性を支える

この三つの基本の「視覚的支援」は、自閉症・発達障害・知的障害の人にとって、必要なものであり、現在では、それが「市販のツール」を用いることで、人や場所、事柄が変わっても、「伝える・尋ねる」ができるようになっているのです。